

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391300031		
法人名	株式会社アキズファイブ		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	愛知県名古屋守山区小幡中三丁目4番2号		
自己評価作成日	令和5年10月25日	評価結果市町村受理日	令和6年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日を楽しく生活する。入居者様が生き生きと明るく生活するお姿が憩の自慢です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アットホームな雰囲気。 ・利用者が好みの場所で過ごす事が出来る。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391300031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、1ユニットの少人数のホームである利点も活かしながら、日常的に職員間で意見交換の時間をつくり、一人ひとりに寄り添った支援が行われている。日常生活についても、利用者同士が関係性をつくりながら、一人ひとりがその人らしい生活を実現する取り組みが行われている。ホーム内については、アットホームな雰囲気がつくられており、利用者がホームで快適に過ごすことができるような生活環境がつくられている。外部のボランティアの方の訪問も得られており、ホーム内でレクリエーションの取り組みも行いながら、利用者の生活が前向きなものになるような支援が行われている。また、当ホームの新たな取り組みとして、利用者の様々な状況にも合わせながらホームでの看取り支援が行われており、利用者が住み慣れたホームで最期を迎えることができるような支援が行われている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和6年1月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	安全、安心、優しさ、全てのスタッフが常に頭において実践している。日常的にアットホームな雰囲気を作るようにしている。理念を事務室内に掲示している。	理念については、元々に理念に「やさしさ、安心、だんらん」という分かりやすい言葉を追加しており、日常の支援を通じてアットホームな雰囲気をつくる等、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	たまに地域の方々と交流している。ボランティア(落語、ハーモニカ)等々来て頂いています。地域の方とは、ホームの隣りで生活している地主の方を通して行われている。回覧板等で情報を得て交流につなげている。	地域の方との交流については、ホームの隣りに住んでいる地主の方が地域の方でもあることで、地主の方を通じて地域の方との情報交換等が行われている。また、ボランティアの方の訪問を継続しており、外部の方との交流を継続している。	地域の方との交流が限られた範囲となっている状況が続いていることもあるため、今後の状況をみながら、地域の方との交流の機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	あまり出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出来る所は、サービスの向上に活かしている。2か月に一度行っている。取り組んでいる。	会議については、レクリエーション活動等を通じた取り組みも行われており、会議の関係者にホームでの様子を見てもらう機会をつくっている。会議を通じて他のグループホームとの交流の機会をつくっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	あまり取り組んでいない。生活保護の方が生活しており、市の担当部署との情報交換等が行われている。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等の機会をつくり、ホームの運営への反映につなげている。また、例年は、区内で行われている行事(区民まつり)を通じた交流も行われており、今後の状況をみながら参加を再開する意向でもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ一同、身体拘束をしないケアに取り組んで、常に取り組んでいる。玄関の出入り口には金具を付けているが、身体拘束を行わない方針のもと、利用者が1階、2階のスペースで過ごす事が出来るよう配慮している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、出入り口については利用者も鍵を外すことができることで、職員間で利用者の見守りが行われている。職員による言葉遣い等を確認する機会もつくっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常日頃から、どういったことが虐待にあたるかをスタッフ間で話し合っており、見過ごさないよう、入居者様ご本人の状態や様子の確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強はしているが、今の所、活用は出来ていない。支援していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時はもちろんのこと、日頃から、利用者様や御家族様とは風通しよく話し合いをしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎日聞いている。カンファレンス時に反映させている。福祉祭りの行事の際は、家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。又、毎日の利用者毎の手紙の作成と写真の送付が行われている。	家族との交流については、ホームの行事等に家族にも参加の呼びかけを行い、交流の機会につなげている。家族からの要望等については管理者が対応している。また、家族への便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1か月に一回、話しの日を設けている。反映させている。毎月の職員会議や日常的な休憩時間等を通じて、職員からの意見がホームの運営に反映できるように取り組んでいる。	職員会議の他にも1ユニットのホームである利点も活かしながら、日常的にも職員間で意見交換の時間がつくられている。管理者を通じて職員と意見交換を行いながら法人代表者に伝え、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来ていない。努めていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	出来ていない。進めていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	個人的には同業者の方々と交流しているが、サービスにはつながっていない。取り組みをしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期の時期は特に利用者様が安心して過ごして頂けるよう、会話や傾聴を重ね、利用者様に寄り添っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	提案も含め、ご家族様の意向にできるだけ沿うことができるよう、連絡をとり合う関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	対応していると思うし、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一つの家族になっている。入居者様とは、共に過ごし支え合う関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	出来ている。築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	出来ている。コーヒーを飲みに行けるよう努めている。利用者の中には、携帯電話をしている方や、ホームからも家族にお願いしながら、一緒に喫茶に出かけた方もいる。	外部の方との交流について、ホームで制限等が行われていないこともあり、入居前からの関係の方との交流にもつながっている。家族との外出も行われており、利用者と自宅に戻り、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立なく、皆様が仲良く、楽しく生活して頂けるよう、日頃から団らんを意識しており、皆様笑顔で生活されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	出来ている。相談や支援に努めていきたいと思えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いをしっかりと聞き、希望、意向に合った生活を整えている。ゆっくり話す機会をもうけている。	1ユニットのホームである利点も活かしながら、日常的に職員間で情報交換を行う時間をつくりながら、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、職員間で利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援に反映する取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの思いをしっかりと聞き、希望、意向に合った生活を整えている。ゆっくり話す機会をもうけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	自由にその人らしく、やりたい事を応援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者様がより良い暮らしが出来るよう、本人、家族様と向き合っている。作成していない。	介護計画については、計画作成担当者を兼務している管理者により支援内容の検討が行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。職員間で意見交換等を行いながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	カンファレンスの時、話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来ていない。取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援を行っている。支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月2回、クリニックの先生が来られます。支援している。	協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応が行われている。受診についても、ホーム職員による支援が行われている。また、協力医療機関の看護師との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎月2回、看護師が来られます。受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは、良い関係が出来ている。関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	今の所、重度化した入居者がおられず支援していない。取り組んでいる。	当ホームの基本的な方針として利用者の看取り支援が行われていないが、利用者の様々な状況にも合わせながら看取り支援が行われており、ホームで最期を迎えている。協力医とも連携を行いながら、ホームで対応な支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練はしていない。身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署と協力しながら、避難訓練、年2回の訓練を行っている。築いているようにする。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等も行われている。当ホームの隣りにホームを貸している大家さんが生活していることもあり、近隣の方との協力関係につなげている。また、水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホーム建物の構造上、利用者の避難に困難な予測されるため、災害に関する近隣の方との協力関係に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者の人格を尊重し、言葉、態度には、十分気を配っている。丁寧な言葉遣いをし、プライバシーを損ねないように対応している。	利用者がホームでの毎日の生活を快適に過ごすことができるように、職員による利用者への対応や言葉遣い等に関する注意喚起の取り組みが行われている。利用者の中には、居室で過ごしている方もいるが、職員間で利用者への声かけ等が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	希望はほとんど叶えておけています。何でも話し合える雰囲気作りに気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望通りに支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	時には化粧をしたり、髪型を変えたり、おしゃれをしている。あまり支援していない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	1か月に一回、ランチを食べに外出している。	食材業者のメニューに基本に調理が行われており、利用者の好みや嗜好等に配慮する対応も行われている。利用者の中には食べられないものがあり、メニューを変更する配慮も行われている。利用者が参加する機会は少ないが、おやつ作り等は行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体重を測り、変化がないよう、食べる量、栄養バランスに気を遣っている。支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝、昼、夜と3回、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	殆ど自立しており、トイレでの排泄に力を入れている。支援を行っている。	利用者の排泄記録を残し、職員間で情報交換等を行いながら、一人ひとりに合わせた支援が行われている。トイレでの排泄を基本に支援が行われているが、建物の構造上の制約もあり、ポータブルトイレを活用する対応も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動、食事の面から、殆ど便秘の方はいない。取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日を決めているが、ゆっくりその人に合った入浴を提供している。支援をしている。	利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われており、職員間で声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。入浴の際には、職員を1人配置していることもあり、職員2名での支援も行われている。また、季節等にも合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬には十分気を付けて行っている。努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	楽しみごとを作り、福祉祭りをはじめ、色々参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	外食は前もって計画し、行っている。その他の外食、遠い所は、家族にお願いしている。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっているが、家族との外出については制限等を設けていないこともあり、家族と出かけている方がいる。例年は、季節等にも合わせた外出行事や地域の行事に参加する取り組みが行われている。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっていることもあるため、今後の状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は職員が管理している。買い物の際は、本人に必要な分だけ渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話で自由に友人、家族に電話されている。支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花や絵を飾ったり、季節感を採り入れたり工夫をしている。	ホーム内は限られた広さであるが、リビングの窓が大きいことでゆったりとした気分で過ごすことができる生活環境がつけられている。また、リビングの壁面には、ボランティアの方が作った作品を掲示しており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1F、2Fにソファを置いてあり、そこで気の合った方々がお話しをされる。工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の宝物は、目の前に届く所に置いてあります。工夫をしている。	居室の家具類については、以前に生活していた方が残した家具類をそのまま活用している方もいるが、利用者の中には家具類を持ち込んでいる方もあり、一人ひとりの意向等に合わせた対応が行われている。また、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全、かつ、自立した生活が送られるよう、常に工夫している。		